

雪国の植物 ユキツバキ 39

枝先に多数の花芽形成

石 沢 進

ユキツバキは、枝先に1個の花芽を着けることが一般的である。しかし、枝によっては2-3個の花芽を着けることもあり、稀に多数の花芽を着ける。ここでは枝先に10個の花芽を着けた枝を東蒲原郡阿賀町鹿瀬のユキツバキ園で見た(2010年4月10日)ので、その位置や着点に注目してその実態について記録する(写真1・2)。

ツバキの頂部の花芽の着き方を詳しく見ると、最上葉の上に形成される頂芽の最下の苞腋に1個できる場合が一般的である。また、頂部に2個着く場合は、最下の苞腋に1個、その上の苞腋に1個のことが一般的である。上記の枝先10個の花芽は、頂部に6個、その下の葉腋に2個、さらにその下の葉腋に2個着いている(写真3・4および図)。頂部の6個は、頂芽の最下の苞腋に2個、その上の苞腋に2個、さらにその上の苞腋に2個着いている。今回の多数の花芽の場合は、頂芽の最下の苞腋に1個できるところに2個、その上の苞腋に2個、さらにその上(葉芽の下から3番目)の苞腋に2個と合計6個が頂芽に出来たことになる。1つの苞腋に2個の花芽は、奇形な双頭現象に当たるとみられる。

下方の葉腋とその下に着いた2個の花芽は、いずれも腋芽の最下の苞腋とその上の苞腋に各1個の花芽がついたことになる。花芽の着き方は、奇形な双頭現象ではなく、恒常的なものとみなされる。

枝先に多数の花を着けていた個体は、一か所だけでなく、枝の各所に同じように多数の花芽を着けており、例年多数の花芽を着ける個体の可能性もあり、今後注目したい。このように多数の花芽を着けた場合、その開花状況を見ると写真(5・6)のようであり、花が完全に開くこともなく半開きで終わっているようである。



写真1 多数の花芽形成



写真2 多数の花芽形成

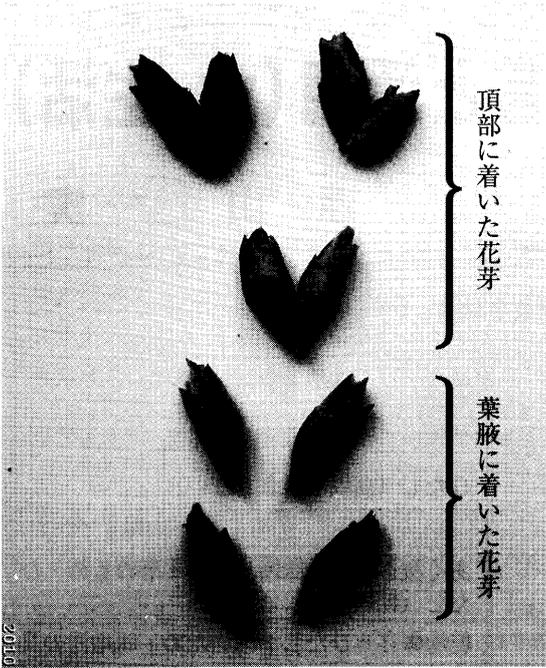


写真3 枝の頂部と下部に着いた花芽

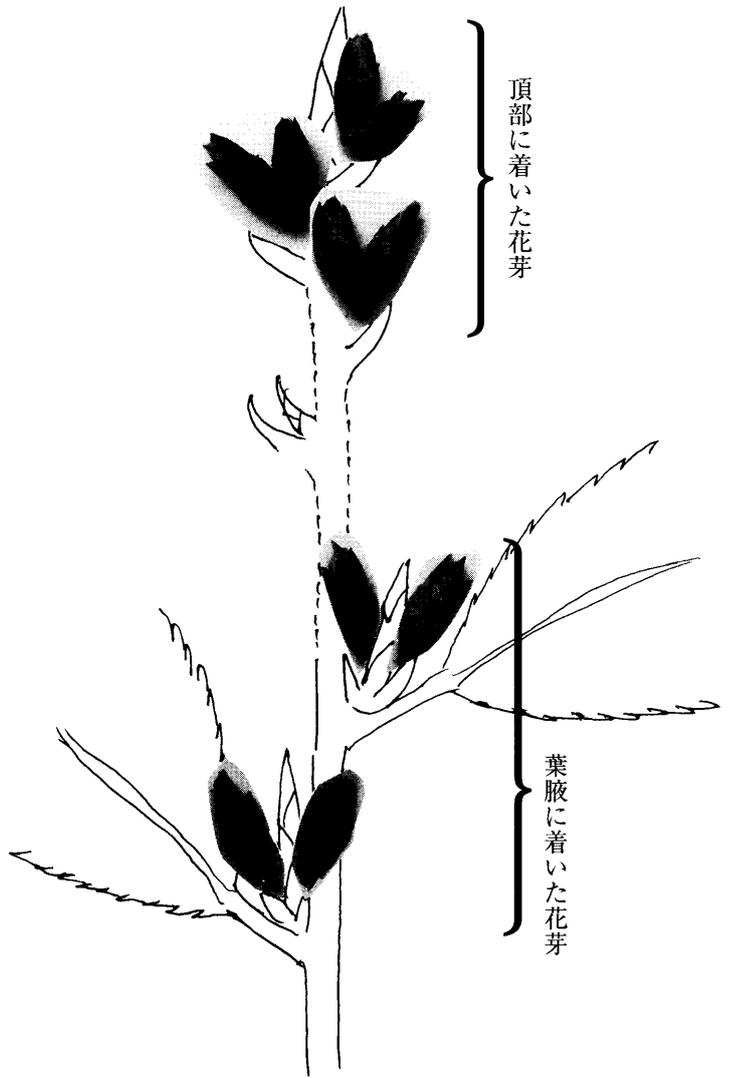


図 枝の頂部と下部に着いた花芽の位置と模式図

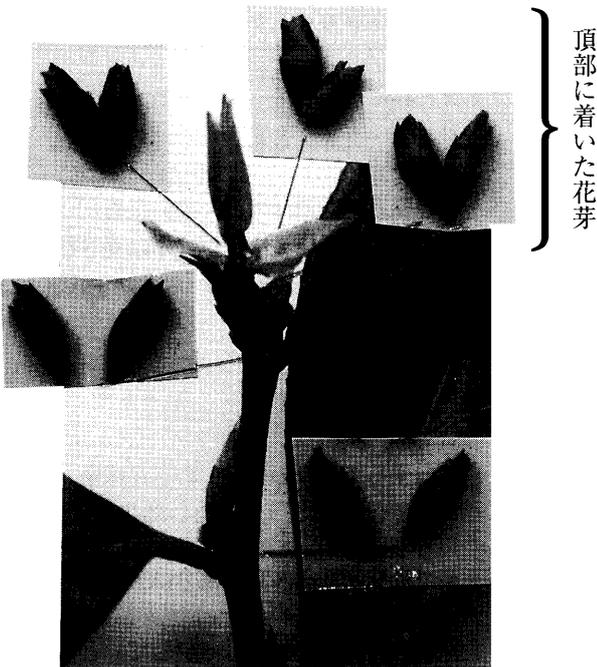


写真4 枝の頂部と下部に着いた花芽



写真5 多数の花芽の開花



写真6 多数の花芽の開花